東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2007年7月20日

聖なる３つの月

親愛なるムスリムの皆様。崇高なるアッラーが、人々に、慈悲と恵みを特に豊かに与えてくださる、定められた時、定められた季節があります。一週間の中では金曜日が、月の中ではラジャブ・シャーバン・ラマダンの三つの月が、恵みに満ちた時になります。

アッラーに感謝いたします。ラジャブ・シャーバン・ラマダンの三つの月の始まりに、私達は到達しようとしています。

預言者ムハンマドが行なわれた次のドゥアーは、聖なる３つの月の重要性を示すものです。「アッラーよ。ラジャブ月、シャーバン月を聖なるものとしてください。そして私達がラマダン月を迎えることができますように。」

親愛なるムスリムの皆様。私たちの信仰生活に、よい意味での新たな緊張、活力を与える聖なる三つの月と、この三つの月に存在するカンディールは、創造の意図を考え、創造主と被造物の結びつきを価値あるものとする上で、この上なく重要な夜です。これらは、私たちの心の家を照らす灯りなのです。

人の生は水のように流れ、去っていきます。過去は、過ちや善行と共に過ぎていきました。過ぎた日々を戻すことは不可能です。未来に関しても、私たちがそこで生きていることを保障するものは何もありません。今日、現在を価値あるものとすることが、私たちにできることなのです。聖なる日々、聖なる夜が与える精神的雰囲気の恩恵を受け、私たちが生きている時の価値を理解し、私たちが負うしもべとしての義務を正しく果たすことに努めましょう。

アッラーを愛しているという人に。しもべとしての任務を果たしていますか。 預言者を愛している、という信者に。そのお方のスンナ、その徳を実践していますか。クルアーンこそがわが書である、という人に。その命令に従い、禁じていることを避けていますか。アッラーの恵みを受けているのに、感謝をしないのですか。飢えた人、困窮した人、よるべのない人、貧しい人を守り、保護していますか。

死が真実であることに疑いはないでしょう。今、死への備えができていますか。自分の罪をただし、悔悟していますか。

去年、この聖なる日々を共に過ごしたのに、今は会うことのできない配偶者、親友、親戚、そして友人達のことを思い、自らに秩序を与えていますか。そう、これらを私達自身に問いかけ、状態を評価することが、この聖なる日々、聖なる夜の意義を見出すことなのです。

親愛なるムスリムの皆様。こういった人間的、イスラーム的基準で考え、悪い点や悪い習慣を放棄し、悔悟し、将来をよりよいものにしようと望み、決意を固めるのであれば、私達の毎日が、カンディルの夜のように立派なものとなり、私達の行き着くところも、イードのように喜びに満ちたものとなるでしょう。